

第34回 崇禪寺伝来墨跡

―保存修理の技がつなぐ文化財―

土岐市妻木町にある臨済宗妙心寺派の古刹崇禪寺は、妻木の領主土岐明智氏が虎溪山永保寺の住持だった果山禅師を招き、文和3年（1354）に創建したと伝わります。

寺には岐阜県重要文化財に指定された貴重な墨跡2幅、夢窓国師墨跡『果山』と「此山妙在墨跡」があります。これらは創建の頃から約700年間に、修理を重ねながら、寺宝として大切に守り伝えられてきました。ところが近年、2幅とも傷みがひどくなっていたため、令和3～4年度にかけて保存修理が行われました。

書や日本画のように絹や紙などの素材からなる文化財を「装演」文化財といい、それらの保存修理を担う技術者を「装演師」といいます。現代の装演師は伝統的な技術を基礎としつつ、科学的な知見も取り入れながら文化財修理を担っており、崇禪寺の墨跡も装演

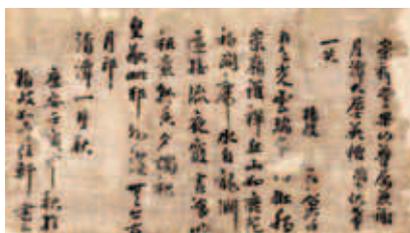
師により保存修理が行われました。

今回の修理は、2幅とも掛軸の表装を全てばらす本格解体修理が行われました。何層にも重なった裏打ち紙や過去の補修紙を一つ一つ慎重に除去し、紙の欠損部分に新たに補修紙を補填していくという、気が遠くなるような作業が行われ、修理後に再び表装し直されました。

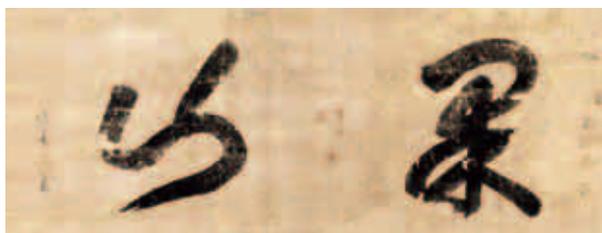
このたび、修理が完了した墨跡を公開すると同時に、「装演師」の技術の一端をご紹介します。展示を開催します。



「果山」の欠損部分に補修紙を補填する様子
写真提供：(株)坂田墨珠堂



此山妙在墨跡（修理後）
康安2年（1362）岐阜県重要文化財



夢窓国師墨跡「果山」（修理後）
南北朝時代（14世紀）岐阜県重要文化財

イベントのご案内

墨跡公開

崇禪寺本堂 10月28日(土) 午後1時～4時
美濃陶磁歴史館 11月1日(水)～12月10日(日)
※歴史館では、墨跡と合わせて保存修理の工程をご紹介します。

関連イベント

※事前申し込みが必要です。

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| ①装演師によるギャラリートーク | ②トークセッション「地域の文化財をつなぐ」 |
| 日時 11月11日(土)
午後6時30分～7時30分 | 日時 11月18日(土)
午後1時30分～3時30分 |
| 場所 美濃陶磁歴史館 | 場所 崇禪寺本堂 |
| 定員 20人 | 定員 70人 |

